

地域の魅力を発信

奈良教育大の学生 知事に具体策提案 奈良女子高の生徒

関西・歴史文化首都フォーラム

世界遺産の保護継承と活用を通じて本来の価値の発信などを狙った、「関西・歴史文化首都フォーラム in NARA」が16日、奈良市萱大路町の奈良公園バスターミナル・レクチャーホールで開かれた。

日本イベント学会などが推進委員会、奈良開催実行委員会、奈良女子高の生徒らによる「奈良女子高の生徒ら」が16日、奈良市萱大路町の奈良公園バスターミナル・レクチャーホール



特別セッションで話し合う山下知事(中央)と教育大の学生、奈良女子高の生徒ら(16日、奈良市萱大路町の奈良公園バスターミナル・レクチャーホール)

「歴史文化首都」として関西の魅力発信する。この日は、「源(みなもと)をキーワード」、「The Place Where It All Begins」(始まりの場所)をテーマに、交流会・懇親会を含む七つのセッション(会合)を開催。それぞれパネリストやモデレーター(司会者)、トークゲストなどが登場し、奈良についてさまざまなテーマで話し合われた。このうち、特別セッション「始まりの奈良、未来への提言」では山下真知事を迎え、奈良教育大の中沢静男EDS/SDGsセンター長(司会)、「県民意識の向上でより良い地域づくりを促進する」「文化遺産の活用で観光を活性化、地域経済の振興を図る」の視点から、これからの奈良を作っていく若者からの提案を話し合った。

奈良教育大ユネスコクラブの学生3人が、県庁東交差点の地下道について「薄暗い地下道は周囲の世界遺産の魅力が半減する」と指摘。壁に奈良時代の鮮やかな色彩を用いて描いた草花、シカ、和歌などのプロ

ジェクションマッピングを提案した。さらに学生1人が壇上で和歌を歌い、その歌声を流すことも提案した。

続いて、奈良女子高の4人が、奈良が1300年間にシカとの共生を図ってきたことや、聖武天皇の全ての生き物が幸せになって欲しいという思いを、SNS(交流サイト)を活用し

た動画で紹介。現代のSDGs(持続可能な開発目標)と同じであり、「これからは奈良の魅力を生かしていきたい」と結んだ。

山下知事は「県では観光戦略会議を立ち上げた。若者の声を観光戦略に生かしたい」とあいさつ。

奈良教育大伝統文化遺産教育専修2回生の山本隆萬(のぼん)さん(19)は「知事と話せる機会なので、しっかりと準備してきた。全部出せたと感じ、奈良女子高2年の辰日菜花さん(16)も「中学からSDGsについて学んできたので、その思いを出すことができた。知事から言葉ももらったというすごい経験をしたい」とそれぞれ感動を語った。